第153回鶴見大学図書館貴重書展

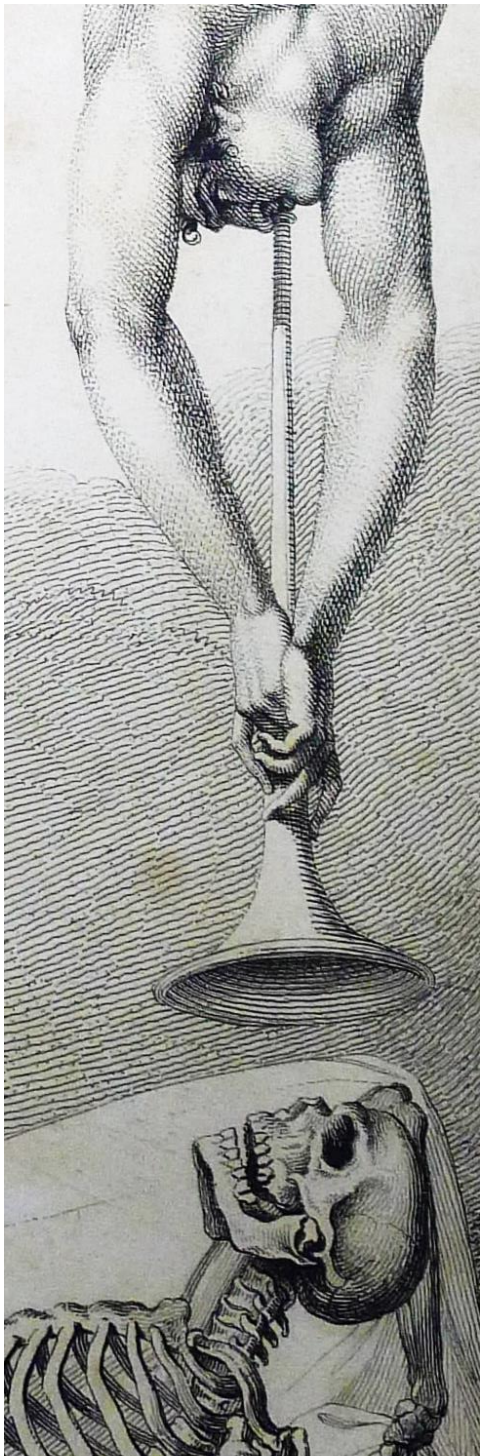
祈りとポエジー

Prayer Poésie

展示期間　2019年9月28日（土）～10月31日（木）
展示時間　平日8時50分～21時00分
土曜8時50分～18時00分
日曜・祝日　休館
ただし、10月14日（月・祝）は授業実施日のため通常開館（8時50分～21時00分）
紫雲祭期間中の10月20日（日）は展示のみ催行（10時00分～16時30分）

講演会　10月5日（土）14時00分～15時30分
「羊皮紙片に記された祈りの歌
～鶴見大学図書館新収貴重資料から～」
講師　西間木真
（東京藝術大学音楽学部准教授）
「英語の詩集にみるヨーロッパとその伝統」
講師　菅野素子（本学文学部准教授）

Designed by Asuka NOGUCHI



ごあいさつ

第153回鶴見大学図書館貴重書展「祈りとポエジー（Prayer and Poesie）」では、祈り、詩、歌など、文字として紙面に記されながらも、声に出して読まれることを念頭において作られたテクストを集めて展示いたします。

展示の見どころは、2点に集約できるかと思います。

ひとつ目は、羊皮紙にラテン語で書かれ、祈りと信仰の生活を支えた西洋中世の彩色写本の断片です。断片と言いますのは、ここに展示した資料はかつて一冊の書物であったものの一部であるためです。いずれの資料も、聖書の『詩篇』もしくは何らかの典礼書に由来しています。つまり、目で読み理解することを第一の目的としたものではなく、典礼という祈りの場で唱え、歌うことを目的としたものです。本学図書館は中世の文献を継続して収集していますが、今回は東京藝術大学音楽学部の西間木真氏に新旧資料の調査をお願いしました。今回の展示では、その調査結果の一端をご紹介します。

ふたつ目は、17世紀から19世紀にかけて出版された英語の詩集です。詩は韻律を持ち、同じ音やリズムを繰り返しながらすすみますので、黙読するよりも実際に声に出して朗読や暗誦することを念頭に置いた分野と言えます。また、声に出すことで、同じ作品をその場で共有しやすく、テクストを媒介にした横のつながりをつけやすい分野とも言えます。ところで、17 世紀の初めには英語の位置づけに大きな変化がありました。1611 年に『欽定訳聖書』が世に出て、英語は世俗の言葉であるだけでなく、信仰の言葉ともなったのです。英語は国民の言語として広まるようになりました。その一方で、英詩は常に詩の理想をヨーロッパに見てもいました。こうした英詩の流れを、本学図書館が誇るミルトン、ワーズワース、バイロン卿、テニスンの詩集を中心にして追っていきます。

今回の展示は多くの方のお力を借りて開催に漕ぎつけました。洗練されたデザインのポスターを作り印刷してくださった本学大学院文化財学専攻博士後期課程の野口明日香さん、展示作業をお手伝いくださった大学院文化財学専攻小池ゼミの髙橋奈さんと蘇晨陽さん、鶴見大学附属中学校高等学校アンサンブルクレイン部の顧問和知麻美先生に心よりお礼申し上げます。ここにお名前を付しませんが、鶴見大学図書館員の皆さま、他にも多くの方々に助けていただきました。

なお、10 月 5 日（土）に行われる講演会では、本学附属中学校・高等学校アンサンブルクレイン部の協力を得て、今回展示した資料の一部を実際に歌っていただけることになりました。紙の上の文字がパフォーマンスとして立ち上がる様子を、是非、ご覧ください。

（文学部英語英米文学科准教授　菅野素子）

展示書目

1．**『ペーザロ市商人組合規則』の装丁として再利用されたミサ典書 (Missale) の零葉 四旬節第３主日(日曜日)後の第 4～６日目(水～金曜日)のミサ**
イギリスあるいはフランドル地方？　13 世紀（中頃あるいは後半）

2．**時祷書 (Horae) (零葉２枚)　聖母マリアのための聖務日課 (朝課)**
イタリア 1550 年頃 (17 世紀 ?)

3．**聖書 (第 51 葉)　詩篇８～９番**　フランドル地方　13 世紀（1260-70 年頃?）

4．**聖書 (零葉)　詩篇１番～６番**　フランス北部　13 世紀後半 (1270 年頃?)

5．**聖務日課書 (第 413-414 葉: bifolium)　聖人共通の聖務日課**
パリあるいはフランス北部　1260 年頃

6．**聖務日課聖歌集 (在俗教会式) (第 30 葉)　終課 (Ad Completorium)**
イタリア　15 世紀

7．**聖務日課聖歌集 (記譜無)　女性聖人共通の聖務日課 (?)**
イベリア半島？　16 世紀？

8．**詩篇唱集（第 115 葉）　第４週日(水曜日)：詩篇 52 番**
イベリア半島？　16 世紀？

9．**詩篇唱集 Psautier férial (211-216 葉: bifolium)　週日第６日目（金曜日）の朝課: 詩篇 85～86 番**　イベリア半島？　16 世紀？

10. **聖務日課唱集 (断片)　待降節第４主日(日曜日)のアンティフォナ**
ドイツ語圏（北部？）　15 世紀

11. **トマス・マロリー『アーサー王の死』**（チェルシー：アッシェンデン・プレス）1913 年
版画：チャールズ・M・ゲア、マーガレット・ゲア

12. **ジョン・ミルトン『失楽園』初版**　（ロンドン：S. シモンズ）1669 年

13. **ジョン・ミルトン『失楽園』第２版**（ロンドン：S. シモンズ）1674 年

14. **ジョン・ミルトン『失楽園』第４版**（ロンドン：J. トンソン）1688 年
挿絵：R．ホワイト＆M.バージェス

15. **ジョン・ミルトン『失楽園』**（リバプール：リバプール書籍販売協会）1906 年
挿絵：ウィリアム・ブレイク

16. **ロバート・ブレア『墓』**（ロンドン：R. H. クロメク）1808 年
銅版画：ウィリアム・ブレイク

17. **アレクサンダー・ポープ『髪盗人』**（ロンドン：チズウィック・プレス）1896 年
挿絵：オーブリー・ビアズリー

18. **トマス・グレイ『六つの詩』**(ロンドン：R. ドズリー) 1753 年
ブックデザイン：R・ベントリー

19. **ジョセフ・リットスン編『イギリス歌謡選集』初版**（ロンドン：J. ジョンソン）1783 年
版画：ウィリアム・ブレイク他

20. **ロバート・バーンズ『詩集、スコットランドの言葉による』キルマルノック版バーンズ全詩集**（キルマルノック：ジェームズ・ムキー）1869 年

21. 『抒情民謡集』初版（ロンドン：J. & A.アーチ）1798 年
22. ウィリアム・ワーズワース『抒情民謡集』第 2 版（ロンドン：J. & A. アーチ） 1800 年
23. ウィリアム・ワーズワース『二巻の詩集』初版
（ロンドン：ロングマン・ハースト・リーズ・アンド・オーメ） 1807 年
24. ウィリアム・ワーズワース『序曲、もしくは詩人の成長』初版
（ロンドン：E. モクソン）1850 年

【参考】ウィリアム・ワーズワース『湖水地方案内』第 5 版
（ケンダル：ハドソン・アンド・ニコルソン） 1835 年

25. ジョージ・ゴードン・バイロン『怠惰の時』初版
（ロンドン：S・アンド・J・リッジ）1807 年
26. ジョージ・ゴードン・バイロン『イングランドの詩人とスコットランドの書評家』初版
（エロンドン：ジェームズ・コーソーン）1809 年
27. ジョージ・ゴードン・バイロン『R. B. シェリダンへの哀悼歌』初版
（ロンドン：ジョン・マレー）1816 年
28. ジョージ・ゴードン・バイロン『ドン・ジュアン』新版
（ロンドン・トマス・ディビソン）1819 年
29. ウォルター・スコット『湖上の麗人：一編の詩』
（ロンドン：ジョン・シャープ）1811 年　版画：ルシアン・ピサロ
30. ロバート・ブラウニング『詩集』
（ロンドン：エラニー・プレス）1904 年　版画：ルシアン・ピサロ
31. ロバート・ブラウニング『ピパが通る』
（ロンドン：ダックワース）1898 年　挿絵：レスリー・ブルックス
32. アルフレッド・テニスン『イン・メモリアル』初版
（ロンドン：E・モクソン）1850 年
33. アルフレッド・テニスン『ウェリントン公爵の死によせる歌』新版
（ロンドン・エドワード・モクソン）1853 年
34. アルフレッド・テニスン『ウェリントン公爵の死によせる歌』初版
（ロンドン：エドワード・モクソン）1852 年
35. アルフレッド・テニスン『アルフレッド・ロード・テニスン詩集』
（ロンドン・マクミラン）1899 年
36. クリスティーナ・ロセッティ『王子の成長、その他の詩』
（ロンドン・マクミラン）　1866 年　扉絵：ダンテ・ガブリエル・ロセッティ
37. ダンテ・ガブリエル・ロセッティ『ソネットと抒情詩』
（ロンドン：ケルムズコット・プレス）1894 年
38. ダンテ・ガブリエル・ロセッティ『バラッドと物語詩』
（ロンドン：ケルムズコット・プレス）1895 年
39. ウィリアム・モリス『グィネヴィア：二編の詩』（ロンドン：ファンフロリコ・プレス）
1930 年　版画：ダンテ・ガブリエル・ロセッティ

大ケース
« ヨーロッパ中世の典礼写本零葉コレクション »

1.『ペーザロ市商人組合規則 (*Statuti del Collegio Mercantile de la citta di Pesaro*)』(Pesaro, 1532 年)の装丁として再利用されたミサ典書 (Missale) の零葉：四旬節第３主日(日曜日)後の第 4 週日（水曜日）から～第６週日(金曜日)にかけてのミサ

羊皮紙、356 x 270 mm (?), 30-31 行 (?) à 2 col.
13 世紀（中頃あるいは後半）、イングランドあるいはフランドル地方？

中世のヨーロッパにおいて本は通常、羊皮紙（獣皮）の上に手書きしたものを綴じて作られていた。羊皮紙は紙に比べて丈夫なため、不要になった本は他の目的で再利用されることがあった。展示１で 16 世紀にイタリアで出版された印刷本の装丁に再利用されているのは、13 世紀のイギリスもしくはフランドル地方（北フランスからベルギーにかけての地域）で作成された写本から裁断された１ページ（零葉 fragment）である。寸法を整えるのと同時に補強のため、四辺が折られた上で、印刷本をはさむ形で二つに折られている。そのため表紙と裏表紙がもとの葉の表側、表紙の裏と裏表紙の裏がもとの葉の裏側となる。しかもテキストが２列（columnes）にレイアウトされているため、内容を確認するには、表紙の左側（下側）、裏表紙の左側（下側）、表紙の右側（上側）、裏表紙の右側（上側） ...という順で読む必要がある。

表紙と裏表紙は摩耗により判読が難しいが、書かれている内容から年間のミサ典礼で読まれるテキスト（聖書朗読や祈祷文など）と歌われるテキスト（聖歌の歌詞）をすべて収めた「ミサ典書 (Missale)」から裁断された１ページであることが分かる。また他のミサ典書との比較から、四旬節、つまり 2 月から 3 月初旬にかけての第３主日(日曜日)後の第 4 週日（水曜日）から第６週日(金曜日)に挙げられるミサの箇所であることが分かる。どこにどのテキストがあるか一目でわかるように、見出しは赤字、聖書朗読や祈祷文の冒頭は赤や青の大きな飾り文字になっている。歌われる聖歌の歌詞は小さな文字で書かれているため、音符の有無にかかわらず、聖歌の歌詞であることが一目瞭然である。

【登録番号 154350】

2. 時祷書の零葉２枚：聖母マリアのための聖務日課 (朝課)

羊皮紙、233 x 160 mm ; just. 138 x 107 mm , 13 行 (n° 1047950). 239 x 160 mm ; just 137 x 110 mm, 13 行 (n° 1047951).
1550 年頃 (17 世紀 ?)、イタリア

祈りの儀式で用いられる中世の典礼書写本は、しばしば有名な画家によって飾り文字や縁取り、様々な図像が描きこまれた豪華本であることが少なくない。そうした美しい写本は時に裁断され、美術品として鑑賞の対象とされる。例えばパリのマルモッタン美術館には、中世写本の切り抜きで壁が飾られた一室があるほどである。展示２として並べられた２枚の零葉は、現在は切り離されて額装で保管されているが、同一の時祷書から切り取られた一続きの

２葉である。「時祷書 (Horae)」とは私的な祈りのために編纂された小ぶりの祈祷書であるが、裕福な個人に所有されることが多かったため、絵本のように多数の挿絵がみられる。

額装の都合で本展示ではどちらも裏葉（４ページのうちの２ページ目と４メージ目）をご覧いただくことになるが、この２葉には聖母マリアの朝課で唱えられる詩篇 94 番 « 来たれ。主に向かって喜び歌おう(Venite exultemus domino ...) » と、それに続く賛歌 (hymnus) « 地と海と大気が (Quem terra pontus ethera ...) » が書写されている。

地と海と大気が
尊び、崇め、宣じているものを、
その三つから成るものを支配する者を
マリア様のお腹は宿しているのです。

QVem terra, pontus, ae-
thera <c>olunt, ado-
rant, praedicant.
Trinam regentem machinam
<c>laustrum Mariae baiulat.
...

詩篇の冒頭の V の文字と賛歌の冒頭の Q の文字は、金で縁取られた枠の中に描かれている。詩篇の各節の間には、復唱される« Ave Maria» あるいは « Dominus tecum » の言葉 (左側の上から２行目)がやはり金文字で挿入されている。

【登録番号 1047950-1047951】

3. 聖書 (第 51 葉) ：詩篇８～９番（神に感謝する人）

羊皮紙、188 x 136 mm ; just. 157 x 105 mm, 20 行
13 世紀（1260-70 年頃?)、フランドル地方

キリスト教社会において共同での祈りの儀式のことを「典礼 (liturgia）」とよぶ。典礼はミサと聖務日課に大きく分けられるが、そのどちらにおいても祈りの言葉や聖歌の歌詞の中心となるのは聖書の詩篇である。展示３では、1 行目に詩篇第８番の最後の言葉「あなたの御名は全地に ... ([...] tuum in universa terra)」が記されており、2 行目から詩篇第９番がはじまる。

わたしは心を尽くして主に感謝をささげ
驚くべき御業をすべて語り伝えよう
...

Confitebor tibi domine in toto cor-
de meo: narrabo omnia mira-
bilia tua ...

冒頭のイニシアル C の中に描かれた大きな手の男性は、詩篇の言葉通り神様へ感謝しているのかもしれない。また 11 行目と 12 行目の欄外に、赤と青の線で描かれた若い(？)ドラゴ

ン（グロテスク）が描き込まれている。各節のイニシアルは、金文字と青の文字で飾られている。

同じ写本に由来する零葉が欧米の複数の図書館で確認されている。そうした他の図書館に所蔵されている零葉から、女子修道院 (ベギン会？)のために作成された聖書の一部である可能性が指摘されている。日本でも国立西洋美術館 (内藤コレクション) と慶応大学付属図書館に同じ写本に由来する零葉が所蔵されている。

https://mssprovenance.blogspot.fr/2015/06/a-lavishly-illuminated-13th-century.html

【登録番号 1329024】

4. 聖書 (零葉) ：詩篇１番～６番（ハープを弾くダヴィデ王）

羊皮紙、195 x 140 mm ; just. 129 x 101 mm, 37 行(à 2 col.)
13 世紀後半 (1270 年頃?)、フランス北部

展示４は聖書詩篇の第１葉であり、表ページには第１番から第４番９節までが書写されている。詩篇の冒頭を飾る B は特に大きな文字で書かれ、その中にダヴィデ王がドラゴンの頭の彫刻で飾られたゴシック・ハープを弾いている姿が描かれている。その楽器をよくみると、弦や弦を巻きつけるピンがみとめられ、胴体にはサウンドホールとおぼしき穴まで描き込まれている。

いかに幸いなことか
神に逆らう者の計らいに従って歩まず
罪ある者の道にとどまらず
傲慢な者と共に座らず
主の教えを愛し
その教えを昼も夜も口ずさむ人。

Beatus vir qui non
abiit in consilio im-
piorum. et in via peccatorum
non stetit. et in cathe-
dra pestilentie non
sedit. Sed in lege
domini voluntas eius
et in lege eius medi-
tabitur die ac nocte. Et erit tam-
quam ...

各篇の最初の文字も唐草文様で囲まれた大きな飾り文字で書写されており、左側中頃の Q の文字は第２番«なにゆえ、国々は騒ぎ立ち (Quare fremuerunt gentes ...)»、右側８行目の D は第３番«主よ、わたしを苦しめる者は (Domine quid multiplicati ...) »、中程の C は 第４番 «呼び求めるわたしに答えてください (Cum invocarem exaudivit ...) »のそれぞれ頭文字である。各節のイニシアルもまた、オレンジと青のインクで目立たせてある。

13 世紀にはパリを中心に、現代の語学辞典の紙を思わせるほど薄い羊皮紙を用いた聖書が多数作成されたが、この零葉の羊皮紙も他のものに比べてとても薄い。なお同じ写本に由来する零葉が、国立西洋美術館 (内藤コレクション)に所蔵されている。

【登録番号 1379232】

5. 聖務日課書 (第 413-414 葉: ビフォリウム) ：聖人共通の聖務日課

羊皮紙、153 x 109 mm ; just. 123 x 79 mm, 32 行(à 2 col.)
1260 年頃、パリあるいはフランス北部

中世の写本は通例、羊皮紙を二つに折りしたものを 4 枚重ねにし、８葉＝16 ページの冊子（quaternion）を複数冊綴じて作られている。「ビフォリウム bifolium」とは、文字通りそうした二つ折にされた 4 枚のうちの 1 枚 (2 葉＝4 ページ分)のことである。

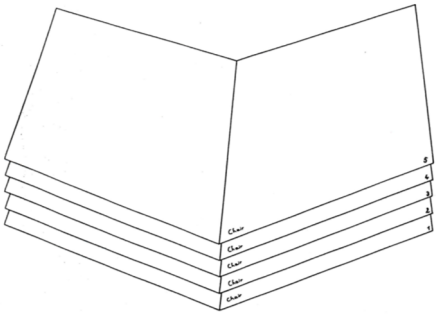


Fig. 1

(ビフォリウムを 4 枚重ねて綴じたクゥアテルニオン)

展示 5 ではビフォリウムの 2 ページ分が見開きの状態になっているが、本来は二つに折られて 4 ページを構成していた。展示の右側が 4 ページのうちの一番最初のページ（413 葉の表）、左側が最後のページ（414 葉の裏）にあたる。内側（展示の裏側）、つまり 413 葉裏の最後のテキストと 414 葉裏のテキストの間に断絶がみられないことから、4 枚重ねの真ん中（第 4 と第 5 葉、7-8 ページ目と 9-10 ページ目）を構成していたことが分かる。

中世のキリスト教社会において、毎日、決まった時刻に行われる祈りの儀式を「聖務日課 (オフィキウム officium)」とよぶ。その聖務日課で唱えられる全てのテキストを収めたものが、聖務日課書 (breviarium)である。展示 5 のビフォリウムには、聖人に捧げられた典礼に共通の聖務日課が書写されている。ここでも各見出しは一目で分かるように赤で書かれている。また聖書朗読や祈祷文は大きな飾り文字で書き出されているのに対し、聖歌の歌詞は小さめの文字で書かれている。

(2017 年 11 月受入)【登録番号 1384499】

6. 聖務日課聖歌集 (第 30 葉) : 終課

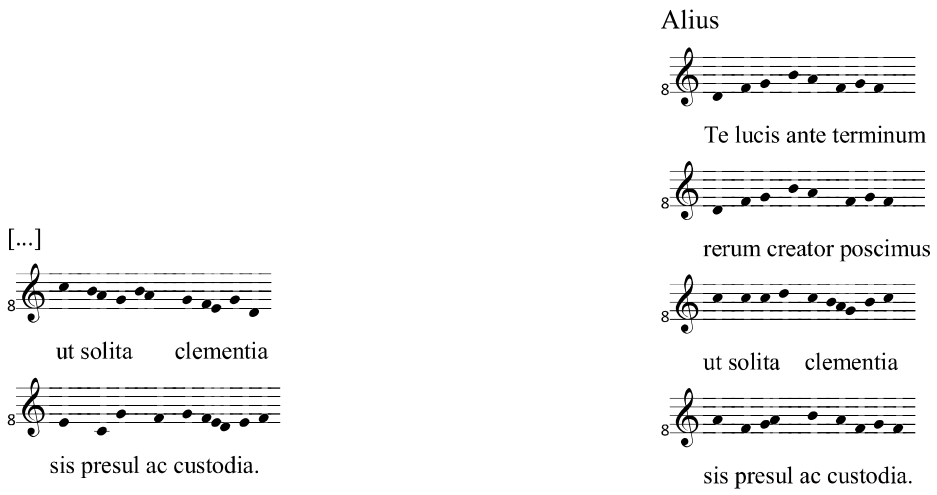
羊皮紙、428 x 330 mm ; just. 385 x 235 mm, ５線譜 7 段
15 世紀、イタリア

聖務日課の中で歌手 (cantor)たちによって歌われる聖歌だけを集めた典礼書を「聖務日課聖歌集（アンティフォナリウム antiphonarium）」とよぶ。本零葉には、１日の終わり、就寝の前に執り行われる終課（Ad Completorium）で唱えられる聖歌が記されている。通常、典礼書は俗界から離れて祈りのための共同生活を行う「修道院」で用いられたものと、人々の生活の中にある教会や聖堂で用いられたものの２種類に分けられる。本零葉にはミラノ司教アンブロシウス (340?-397)による賛歌« 光が消える前に»が記譜されていることから、在俗教会式の聖歌集 (Antiphonarium romanum)である。

光が消える前にあなたに、
万物の創造主よ、お祈りいたします。
常しえの慈しみによって
お守りの先陣に立ってくださいますよう。

Te lucis
ante terminum, rerum creator, po-
scimus ut solita clementia fis pre-
sul ac custodia.

中世において賛歌は、一つのテキストが一つの決まった旋律で歌われるのではなく、複数の旋律のレパートリーの中からその都度、旋律が選択された。この零葉では、この« 光が消える前に» に二つの旋律が挙げられているが、どちらも賛歌の旋律目録にはみられないものであり興味深い。



裏面には、続いて歌われるアンティフォナ« あなたの群れを主よ見放さないでください (Gregem tuum domine ne deseras ...) »が記譜されている。楽譜は、通常の４線ではなく、５線の上に角型ネウマとよばれる音符を配置したもので、左端に音部記号 F の文字が、右端には次の段の最初の音符の音高を示すマーク (custos)が記されている。

【登録番号 L H-22】

7. 聖務日課聖歌集 (Antiphonarium monasticum)：女性聖人共通の聖務日課 (?)

羊皮紙、820 x 585 mm., just. 624 x 415 mm, 15 行
16 世紀？、イベリア半島？

聖務日課では聖書朗読の間にレスポンソリウム(responsorium)とよばれる種類の聖歌が歌われた。展示 7 には楽譜はみられないが、聖歌の歌詞のみが書かれていることから、聖務日課聖歌集から切り取られた零葉であると考えられる。上部の大きな飾り文字 R の前に" Resp. ij "とあるため、« この世の王国と全ての装飾を (Regnum mundi et omnem ornatum) »が 2 番目のレスポンソリウムであることが分かる。また下部の飾り文字 O の前に" R. iij "とあることから、« わたしは祈った。すると悟りが与えられ(Optavi et / datus est ...) » が 3 番目のレスポンソリウムであることが分かる。そうすると左上に書かれている « そして忘れよ (Et obliviscere) »の 2 語は、レスポンソリウムの 1 番として歌われた « 娘よ聞け。そして見よ (Audi filia et vide ...) »の反復句と考えられる。また裏面をみると第 3 レスポンソリウムの最後に小詠唱«グロリア・パトリ»が続いており聖書朗読とレスポンソリウムが 3 篇ずつ組み合わされていたことが分かるため、この聖務日課聖歌集は修道院で用いるために作成されたものであると推察される。

第 1 レスポンソリウムと第 2 レスポンソリウムは、女性の聖人共通の聖務日課で広く歌われたレパートリーであるが、第 2 レスポンソリウムの唱句(versus)として « あなたのいますところはどれほど愛されていることでしょう(Quam dilecta tabernacula tua ...) » (Ps. 83.2)が組み合われている例はおそらくめずらしい。この唱句は、通常、教会の献堂を記念する聖務日課で用いられることが多いことから、この聖務日課聖歌集はある特定の女性聖人に捧げられた修道院のために作成されたものかもしれない。なお第 3 レスポンソリウムの歌詞は、旧約聖書に続く「知恵の書」第 7 章第 7-8 節からとられているが、このテキストを歌詞としているレスポンソリウムもまたとても珍しいと考えられる。

【登録番号 L H-32】

8. 詩篇唱集（第 115 葉）：第 4 週日(水曜日)：詩篇 52 番

羊皮紙、767 x 540 mm ; just. 620 x 390 mm, 17 行
16 世紀？、イベリア半島？

日々の聖務日課では、一週間に 150 篇からなる詩篇全体が朗唱された。聖書の中の一書としての詩篇とは別に、そうした聖務日課で唱えられる詩篇を他の聖歌と一緒に順に記した典礼書を「聖務日課唱集 (psalterium feriatum)」とよぶ。展示 8 は詩篇唱集の第 115 葉で、第 4 週日 (水曜日)の朝課で朗唱された賛歌 (hymnnus) « 最善の創造主よ(Rerum creator optime ...) » の最後の 3 節と詩篇 52 番 «神を知らぬ者は心に言う (Dixit insipiens...) »の冒頭が記されている。

神を知らぬ者は心に言う
「神などいない」と。
人々は腐敗している。

忌むべき行いをする
...

Dixit insipiens in corde suo: Non est Deus.
Corrupti sunt et abomi- //
biles facti sunt ...

【登録番号 L H-33】

9. 詩篇唱集 (211 葉と 216 葉のビフォリウム)：週日第 6 日目（金曜日）の朝課: 詩篇 85〜86 番

羊皮紙、542 x 390 mm ; just. 450 x 288 mm, 14 行
16 世紀？、イベリア半島？

聖務日課で用いるために編纂された詩篇唱集 (psalterium feriatum) のビフォリウム。それぞれの葉の右上に書き込まれた数字から 211 葉目と 216 葉目を構成しており、その間にあと 4 葉（8 ページ）、つまり 2 枚のビフォリウムが綴じ込まれていたことが分かる。第 211 葉の裏ページは週日第 6 日目 (金曜日)の朝課で唱えられる詩篇 85 番の最後と詩篇 86 番の冒頭 « (聖なる山に基を置き»が、216 葉表ページには詩篇 88 番 « 主の慈しみをとこしえにわたしは歌います»の 第 11 節の後半 «敵を散らされました(dispersti inimicos tuos) » から第 15 節 «慈しみとまことは (Misericordia et veritas) ... »までが記されている。

聖なる山に基を置き
主がヤコブのすべての住まいにまさって愛されるシオンの城門よ。

Fundamenta eius in
montibus sanctis
diligit dominus portas Si-
on super omnia tabernacu-
la jacob. Gloriosa ...

左側では、詩篇 85 番の後に歌われるアンティフォナ (An.) « 主よ、あなたはあなたの地を祝福しました(Benedixisti domine terram tuam) » と 86 番に続いて歌われるアンティフォナ (An.) « 聖なる山に基礎を置き (Fundamenta) »の歌い出しの歌詞が、半分の大きさの文字で記されている。詩篇とアンティフォナは交互に朗唱されるが、聖歌の歌詞と旋律の全体は聖務日課聖歌集の方に楽譜としてまとめられている。聖歌集の方では逆に、詩篇は冒頭の数語のみが記されている。

【登録番号 L H-34】

10. 聖務日課唱集 (Antiphonarium) (断片) ：待降節第 4 主日(日曜日)のアンティフォナ« シオンで角笛を吹き Canite tuba »のイニシアル C (?)

羊皮紙、165 x 152 mm.
15 世紀、ドイツ語圏（北部？）

中世の写本では、章や節のはじめが一目で分かるように最初の文字が大きな飾り文字や絵入りの文字で書かれていた。そうした彩色画入りの飾り文字は美術的な価値が高いことから、その部分だけが切り取られて、鑑賞の対象とされることがよくある。角笛を吹く貴族とその横で歌う男性が描かれたこの断片も、そうして切り取られた一枚であると考えられる。

この文字が、アルファベットのいずれの文字か定かではないが、図像と前後の聖歌から、待降節第 4 主日(クリスマス前の日曜日)に歌われるアンティフォナ« シオンで角笛を吹き(Canite tuba in Sion ...) » のイニシアル C であると考えられる。左側の欄外には架空の動物グリフィン（グリフォン）が描かれている。

断片の上部にはその前の週の第 3 週日（火曜日）の典礼で歌われるアンティフォナ « 立ち上がれ、立ち上がれ»の一部 « -cla colli tui, ca- » とその楽譜がかろうじて残されている。

立ち上がれ、立ち上がれ、奮い立て、エルサレムよ。
首の縄目を解け、捕らわれの娘シオンよ。
(cf. イザヤ書、52, 1-2)

[A. Elevare, elevare, consurge Ierusalem; solve vin-]
cla colli tui, ca[ptiva filia Sion. Euo-]
uae.

旋律は、文字を書くために刻まれた罫線をなぞる形で 4 本線（譜線）がひかれ、その上に音符（ネウマ符）を配置する方法で記譜されている。どの線がどの音に相当するのかが分かるように、譜線の右端に音の高さを示す F（ファ）と c（ド）の文字がみられる。また半音の位置がはっきりするように、ファの音にあたる線は赤、ドの音はおそらく黄色で示されている。この断片の裏側には、待降節第四週日 2 日目（クリスマス前の月曜日）のレスポンソリウム 2 曲の一部がみとめられる。これらの聖歌の配置から、この断片は横幅が 500 ミリを超え、２段で書かれた大きな聖務日課聖歌集から切り取られたものであると推察される。

武田虎之助氏旧所蔵【登録番号 L 292139】

※聖句および聖歌の歌詞は、原則として新共同訳聖書に従った。ただし詩篇の番号は、ウルガタラテン語訳聖書の番号を踏襲したため、新共同訳聖書のものとずれている。写本の年代設定や起源、"sister leaf"などについては、実践女子大学の駒田亜紀子先生から情報をいただきました。

西間木 真

羊皮紙から紙へ、手書きから印刷機へ

11. トマス・マロリー『アーサー王の死』（チェルシー：アッシェンデン・プレス）1913 年
版画：チャールズ・M・ゲア、マーガレット・ゲア

Thomas Malory, *The Noble and Joyous Book Entytled Le Morte Darthur Notwythstondyng It Treateth of the Byrth, Lye, and Actes of the Sayd Kyng Arthur, og his Noble Knyghtes of the Round Table, Theyr Mervayllous Enquestes and Adventures, Thachyevying of the Sangreal & in Thende the Dolorous Deth and Departying out of thys Worlde of them al, Whiche Book Was Reduced in to Englysshe by Syr Thomas Malory, Knyght.* Chelsea: Ashendene Press, 1913.

トマス・マロリー(1471 没)が『アーサー王の死』(*Le Morte Darthur*)を書いたのは 1469-70 年頃とされている。マロリーは当時、投獄されていた。その数年後の 1476 年、ウィリアム・キャクストンがヨーロッパの活版印刷技術をイギリスに持ち込む。キャクストンがマロリー作『アーサー王の死』を印刷したのは 1485 年とされている。

展示の書は、キャクストン版のリプリント(ウィリアム・アップトン編, 1817 年)を底本としたリプリント版で、150 部に限って印刷された。初期の活版印刷インキュナプラでは、写本のデザインにならって各章の最初を赤字で印刷した。これをルーブリケーション(rubrication)と言うが、本版では赤と空色を交互に使用して、リズム感を出している。なお、版画の下絵はチャールズ.・H.・ゲア(1869-1957)とマーガレット・ゲア(1878-1965)による。チャールズ・ゲアはアーツアンドクラフト運動に共感し、ウィリアム・モリスとも親交があった。

17 世紀——ジョン・ミルトン『失楽園』

12. ジョン・ミルトン『失楽園』初版（ロンドン：S. シモンズ）1669 年

John Milton. *Paradise Lost. In Ten Book.* First Edition, London: S. Simmons, 1669.

ジョン・ミルトン(1608-74)の『失楽園』は、旧約聖書の「創世記」をもとに、人類の祖先アダムとイブの楽園追放と魂の救済をテーマにした叙事詩である。本来、叙事詩とは、ホーマーの『イリアッド』やフィリップ・スペンサーの『妖精の女王』のように、国の歴史や出来事をテーマにした詩のことだが、ミルトンの『失楽園』はイギリスという国ではなくキリスト教と人類の歴史をテーマとする点で、新しい形の叙事詩と言える。

ミルトンはピューリタン革命の担い手であったジェントリー階級出身だった。革命後に成立した共和国（コモンウェルス）においては、護国卿クロムウェル側の論客として政治論争の中心にいて、政治的なパンフレット等の執筆と出版を主な活動とした。しかし、無理がたたって失明し、クロムウェルも失脚する。失意の中で、娘の口述筆記により生まれたのが『失楽園』である。その後も、ミルトンは多数の著作を発表した。

全詩行は 10,565 行で、弱強 5 歩脚（1 行に弱強のパターンを 5 回繰り返す）による無韻詩（行末で韻を踏まない）で書かれている。

なお、本学所蔵の版本は、初版（1668 年）発行の翌年にタイトルページを差し替えて 2 度刊行されたもののうちの一つである。初版の売れ行きがよく、大量に印刷した分にタイトルページを変えて刊行したものであるため、本文には異同がない。

13. ジョン・ミルトン『失楽園』再版（ロンドン：S. シモンズ）1674 年

John Milton. *Paradise Lost. In Twelve Books.* Second Edition, London: S. Simmons, 1674.

ヴェルギリウスの『アエネイス』に代表されるローマ・ギリシア古典の叙事詩の伝統にならい、12 巻本（Books）として刊行された。

14. ジョン・ミルトン『失楽園』第 4 版（ロンドン：J. トンソン）1688 年
挿絵：R．ホワイト＆M.バージェス

John Milton. *Paradise Lost. In Twelve Books.* Fourth Edition, London: Printed by M. Flesher for J. Tonson.

最初に出版された挿絵入りの版本である。出版者の J（ジェイコブ）・トンソンはミルトンの死後 1680 年に『失楽園』の版権を遺族より購入した。

出版者のトンソンは、旧版に様々な要素を追加している。まず、各巻（Book）の扉に版画が印刷し、その章の見どころを示した。ここに展示したのは第 12 巻の扉ページで、アダムとイブが楽園を後にする場面が描かれている。

この他、第 4 版の扉ページにはミルトンの肖像が印刷されている。肖像には、当時の文壇の重鎮であるジョン・ドライデンの賛辞が付され、ミルトンをローマ・ギリシアの偉大な詩人たちの流れを汲む詩人と位置づけている。

15. ジョン・ミルトン『失楽園』（リバプール：リバプール書籍販売協会）1906 年
挿絵：ウィリアム・ブレイク

John Milton. *Paradise Lost.* [illustrations by William Blake], Liverpool: Liverpool Booksellers, 1906.

ミルトンの『失楽園』をテーマに、画家・詩人のウィリアム・ブレイクは水彩画を製作した。当初、一連の水彩画は書籍の挿絵として製作されたわけではなく、個人の委託により製作・所蔵されていた。その挿絵を、初めて本文と合わせて出版したのが、ここに展示する書籍である。

挿絵の元となった水彩画の連作は 3 種類が知られている。本版は、1807 年にジョゼフ・トマス牧師のために製作されたものを使用していると思われる。

水彩画を描いたブレイクにとって、ミルトンは特別な存在であった。1810 年には叙事詩『ミルトン』（2 巻本）を刊行している。なお、詩集『ミルトン』には、イギリスの第二の国歌とも言われる「エルサレム」が含まれている。

18 世紀——新古典派と墓地派の詩人

16. ロバート・ブレア『墓』（ロンドン：R. H. クロウメック）1808 年
版画下絵：ウィリアム・ブレイク、版画製作：ルイ：スキャボネッティ

Robert Blair. *The Grave: A Poem*. Illustrated by twelve Etchings executed by Louis Schiavonetti, from the original inventions of William Blake. London: R. H. Cromek, 1808.

スコットランドの詩人ロバート・ブレア(1699-1746)は牧師の仕事のかたわら詩作を続け、1743 年に『墓』（ロンドン：M. クーパー）を発表した。不揃いな詩行を持つ無韻詩である。

ブレアは墓地派と称される詩の潮流の源をなす詩人で、墓場や夜の闇といった読者の恐怖心を掻き立てるような反理性手的な主題を、明確な構成を持たない「一編の詩」として発表した。これは、18 世紀の主流であった、展示番号 17 のような規則と理性を尊重する古典主義の詩とは異なる、不気味かつ哲学的な詩で、18 世紀後期のゴシック文学の流行の先駆けとも言われる。

本学図書館所蔵の書籍は最初の挿絵入りの版で、出版者クロウメックの委託によりウィリアム・ブレイクが版画の原画（水彩）を担当した。ブレイクは版画も製作したが、クロウメックは気に入らず、版画制作をルイ・スキャヴォネッティに依頼した。

17. アレクサンダー・ポープ『髪盗人』（ロンドン：チズウィック・プレス）1896 年
挿絵：オーブリー・ビアズリー

Alexander Pope. *The Rape of the Lock: An Heroi-Comical Poem in Five Cantos* [embroidered with Nine Drawings by Aubrey Beardsley] London: Chiswick Press, 1896.

『髪盗人』は、アレキサンダー・ポープ(1688-1744)が 1712 年に発表した作品で、交際を求めても巧みに逃げる女性のつれない態度に業を煮やした男性が、女性の頭髪を一房切り落とした事件の顛末を追う。構成は 5 篇（Canto; ラテン語で歌・旋律という意味の cantus より）で、全編にわたり英雄対句（行末が 2 行ずつ脚韻を踏む）で書かれている。原題の’rape’はラテン語の’repere’（つかむ）に由来する。展示した書籍の表紙にはさみの金押しがあるのは、物語詩のプロットに由来する。

ポープはギリシア・ローマの古典文学に通じ、ホメロスの『イーリアス』を英語に翻訳するなど、古典主義が主流を占めた 18 世紀の文壇で活躍した。本作は、上流階級の恋愛沙汰を、英雄対句を用いた叙事詩調で語っており、テーマと形式にずれがみられる。ポープは恋愛沙汰を大げさな詩句と形式で描き出し、副題にもある ‘Heroi-Comical’「英雄的」な形式で「喜劇的」な作品に仕上げた。

展示した作品は、19 世紀末に活躍した画家のオーブリー・ビアズリーが挿絵をつけた版で、上流社会の恋愛模様を退廃的なタッチで描きだしている。

18. トマス・グレイ『六つの詩』(ロンドン：R. ドズリー) 1753 年
ブックデザイン：R・ベントリー

Thomas Gray. *Six Poems*. (Designs by Mr. R. Bentley) London: R. Dodsley, 1753.

トマス・グレイ(1716-1771)はケンブリッジ大学で教えながら詩作を続けた。試作の巧みさから、1757 年には桂冠詩人へのオファーを受けるが、辞退してケンブリッジでの学究生活を続けた。本作はグレイの新旧 6 つの詩を収めた最初の詩集である。初版 2 発行の後、同年に増補版の再版も出版されており、人気の高さがうかがえる。

グレイの代表作は本詩集にも収められた「田舎の教会墓地にて詠める挽歌」(‘An Elegy Written in a Country Churchyard’, 1751)で、教会墓地に埋葬されていた田舎の名もなき素朴な人々の生活に思いをはせ、詩人もそのように生き死にたいという願いが表明されている。なお、ここに開いたページは「愛猫の死を悼むオード」(1747 年)である。友人の愛猫の溺死を知って作られたもので、擬英雄詩（英雄対句の形をやや崩した形で踏襲しているもの）で、死を悼む気持ちと諧謔味を兼ね備えた作品である。

ケース３　18 世紀――歌謡選集の編纂

19. ジョセフ・リットスン編『イギリス歌謡選集』初版（ロンドン : J. ジョンソン）1783 年　版画：ウィリアム・ブレイク他

Joseph Ritson (ed.) *A Select collection of English Songs*. [with illustrations by William Blake and Others], London: J. Johnson, 1783.

編者のジョゼフ・リットスン(1752-1803)はイギリスの古いバラッドや歌謡の収集家であり、収集の成果をいくつかの選集として出版した。リットスンが活躍した 18 世紀後半は、伝統的な歌謡であるバラッドや古謡への関心が高まり、同様の選集が各種出版された。その先鞭をつけたのがトマス・パーシー(1718-1811)編集による『英国古謡拾遺集』(*Reliques of Ancient Poetry*, 1765)である。国民の間に伝わる民謡やバラッドへの関心は、技巧や凝った言い回しを避け、できるだけ日常的な言葉で書こうとするロマン派の詩人たちに影響を与えた。

本選集は第 1 巻に恋の歌、第 2 巻に酒の歌・その他の歌・古いバラッドを収め、第 3 巻には前 2 巻の楽譜を収める。展示のページは「古いバラッド」のひとつ、「ほまれ高きロンドンの奉公人」（‘The Honour of a London Prentice’）である。エリザベス 1 世に忠義をつくすロンドンの奉公人が、最後にはその忠義ぶりをオスマン・トルコの皇帝に認められてトルコ王女と結婚する、という筋書きになっている。

なお、本選集には版画作家・詩人のウィリアム・ブレイク(1757-1827)が銅版画の挿絵を制作している。展示番号 15 に展示した水彩画と比べると、画面構成やタッチ等、独自の世界を展開する前の作品であることが分かる。

20. ロバート・バーンズ『詩集、スコットランドの言葉による』キルマーノック版バーンズ全詩集（キルマーノック：ジェームズ・ムキー）1869 年

Bobert Burns. *Poems, Chiefly in the Scottish Dialect*. Kilmarnock complete edition of Burns' poems and Songs, Kilmarnock, Printed by James M'Kie.

スコットランドの国民詩人とまで言われるロバート・バーンズ(1759-96)は、素朴で大らかな作風で知られる。代表作に「赤いばら」(‘A Red Red Rose’)や「過ぎにし昔」(‘Auld Lang Syne’)がある。後者は「蛍の光」の原曲ともなった曲で、スコットランドでは大晦日から新年にかけて開催されるお祭りホッグメニーで歌われる。

バーンズは田舎の貧しい小作農の家に生まれた。幼い頃から父親を助けて農作業に従事するかたわら学校に通い、15 歳頃から詩作を始める。スコットランド方言で書いた本作(初版出版は 1786 年)で評判を取る。以降、収税吏としての仕事のかたわら、スコットランドの民謡を収集し、創作活動（作詞・作曲）を行った。

ロマン派①――ウィリアム・ワーズワース

21. 『抒情民謡集』初版（ロンドン：J. & A.アーチ）1798 年

[William Wordsworth and Samuel Taylor Coleridge]. *Lyrical Ballads: with a Few Other Poems*. London: J. & A. Arch, 1798.

ウィリアム・ワーズワース(1770-1850)とサミュエル・テイラー・コールリッジ(1772-1834)の作品を収めたもので、イギリス詩に革命をもたらした記念碑的な 1 冊だが、当初は匿名で出版された（赤⇒参照）。ワーズワースの作品 23 編、コールリッジの作品 4 編を収める。

巻頭の Advertisement によると、本書の目指すところは中流階級と下層階級の人々の話し言葉を用いて詩を書くことができるかという「実験」である、と記している。

22. ウィリアム・ワーズワース『抒情民謡集』再版（ロンドン：T. N. ロングマン） 1800 年

William Wordsworth. *Lyrical Ballads: with a Few Other Poems*. London: T. N. Longman, 1800.

初版 500 部が完売し、大手出版者ロングマンが増補版の出版を打診する。ワーズワースは自身の名で再版を出し、その序文に友人の詩を含むことを明記した。

第 2 版には有名な「序文」がつけられており、その中でワーズワースは詩の言語について「日常使われている言葉」で詩を書くこと、そして良い詩とは「瞬時にあふれ出る感情」を捉えるものだ（赤⇒参照）と主張する。18 世紀の詩が、ギリシア・ローマの詩を模範とし、その形式や語法を模倣して詩の言語に技巧を凝らしたのに対し、ワーズワースは詩人の体験としての感覚・感情を重視し、言葉の息吹を取り戻そうとしたと言えるだろう。

23. ウィリアム・ワーズワース『二巻の詩集』初版（ロンドン：ロングマン・ハースト・リーズ・アンド・オーメ） 1807 年

William Wordsworth. *Poems in Two Volumes.* London: Longman, Hurst, Reeds, and Orme, 1807.

1800 年に『抒情民謡集』の再版を出版した後の 7 年間、ワーズワースは詩をまったく発表していなかった。本作品は 7 年ぶりに刊行された詩集で、「水仙」(‘Daffodils’)のタイトルで知られ「雲のように一人さまよいて」(‘I wondered lonely as a cloud’)で始まる無題詩や、「子どもは大人の父親なのだ」という詩行で知られる「虹」(‘The Rainbow’)などの代表作が収められている。

24. ウィリアム・ワーズワース『序曲』初版（ロンドン：E. モクソン）1850 年

William Wordsworth. *Prelude or Growth of a Poet’s Mind*. First Edition. London: E. Moxon, 1850.

ワーズワースの死後に出版されたものだが、1799 年に着手し、1805 年には脱稿していた。詩人はその後、何度も推敲を重ねたが、自ら出版することはなかった。『序曲』というタイトルは妻のメアリーがつけたものであり、詩人自身は「コールリッジに捧げる詩」と呼んでいたという。

本作は、題名に「詩人の心の成長」(*Growth of a Poet’s Mind*)もあるように、詩人の精神的成長の過程を追う自伝的長編詩だが、詩人本人はこの作品を叙事詩的試みと見なしていた。詩人は湖水地方で過ごした幼少期、ケンブリッジ大学時代、首都ロンドンの印象、アルプス旅行、革命当時のフランスなど、人生の主要な段階において、自分の詩心がどのように発展したかを語る。国の歴史や出来事を題材とする叙事詩を、キリスト教による人類の歴史に作り替えたのはミルトンだが、ワーズワースはそれを一人の詩人の成長を語るものに変えようとした。

【参考】ウィリアム・ワーズワース『湖水地方案内』第 5 版（ケンダル：ハドソン・アンド・ニコルソン） 1835 年

William Wordsworth. *A Guide through the District of the Lakes in the North of England: with a Description of the Scenery, &c.: for the Use of Tourists and Residents.* Kendal: Hudson and Nicholson.

ワーズワースが生まれ育ち、生涯の大半を過ごした湖水地方の地図を含む。ピーター・ラビットの絵本シリーズで知られるベアトリス・ポッターも、この地で創作活動を行った。

ロマン派②——バイロン卿とウォルター・スコット

25. ジョージ・ゴードン・バイロン『怠惰の時』初版（ロンドン：S・アンド・J・リッジ）1807 年

George Gordon Byron. *Hours of Idleness, Series of Poems, Original and Translated*. London: S. and J. Ridge, 1807.

展示 23 と同年に出版されたジョージ・ゴードン・バイロン(1788-1824)の処女詩集である。バイロンは、10 歳の時に大叔父の爵位を継いでバイロン男爵となった。ケンブリッジ大学在学中 19 歳の時に出版したのが、本作、『怠惰の時』である。自作詩と翻訳および模倣詩を含む。

「序論」でバイロンは述べている「詩は私の職業ではない。退屈で無為の時間や単調で何もすることがない時間が、詩作という罪に自分を向かわせるのだ」と。19 歳の若者の処女詩集は、文芸誌で酷評された。匿名の書評は詩集を「感情むき出しの詩文が平らに広がるだけで、淀んだ水のように深みがない」と批判した。

本学所蔵の初版は、革製の特殊なケースに収められている。このケースは、後の購入者が特別に作らせたものであろう。書籍が予め装丁されるようになったのは比較的最近のことで、本資料では、出版当初の装丁しなおされていない状態の書籍を確認できる。

26. ジョージ・ゴードン・バイロン『イングランドの詩人とスコットランドの書評家——ひとつの風刺』初版（エロンドン：ジェームズ・コーソーン）1809 年

George Gordon Byron. *English Bards, and Scotch Reviewers: A Satire*. First Edition. London: James Cawthorn, 1809.

バイロンの処女詩集を酷評した『エジンバラ・レヴュー』に対する、風刺詩としての反論である。初版には作者バイロンの名はないが、再版以降は著者名が明記された。タイトルページには二つの引用が掲げられている。一つはシェイクスピアで「子猫になってニャーオと鳴く方がいい！同じ歩脚パターンばかりを繰り返すバラッド屋になるよりは」とある。もう一つはアレクサンダー・ポープからの引用で、「詩人は皆恥知らずだ。だが、気がふれて見放された批評家ほど多くはない」とある。

作品の副題に「ひとつの風刺」（*A Satire*）とあるように、この作品でバイロンは、ポープが極めた風刺の伝統に倣い、英雄対句を用いて、批評家の愚行を批判している。

27. ジョージ・ゴードン・バイロン『R. B. シェリダンへの哀悼歌』初版（ロンドン：ジョン・マレー）1816 年

George Gordon Byron. *Monody on the Death of the Right Honourable R. B. Sheridan, written at the request of a friend, to be spoken at Drury Lane Theatre*. First Edition. London: John Murray, 1816.

18 世紀の劇作家・政治家リチャード・ブリンズリー・シェリダン(1751-1816)を追悼す

る詩で、1816 年 9 月 7 日（シェリダンの死後 2 か月目）にドルーリー・レーン劇場においてデイヴィソン夫人によって吟唱された。副題に「友人の求めに応じて書かれた」(‘Written at the request of a friend’）とあるが、再版時にこの副題は削除された。バイロンの断りなしに、出版者のマレーが副題を付けたためである。

原題の’monody’にはいくつかの意味があり、『オックスフォード Lexico』によると、１）ギリシャ悲劇で一人の役者によって歌われるオード、２）人物の死を悼む詩、３）単旋律の音楽、となっている。劇作家としては『悪口学校』(*School of Scandal*, 1777 年)等の傑作を残し、ホイッグ党の政治家として活躍した故人の経歴を踏まえたジャンル選択と思われる。詩の本文は 118 行 8 頁にわたり、英雄対句を用いて書かれている。

28. ジョージ・ゴードン・バイロン『ドン・ジュアン』新版（ロンドン・トマス・ディビソン）1819 年

George Gordon Byron. *Don Juan*. A New Edition. London: Thomas Davison, 1819.

‘I want a hero: an uncommon want … I’ll therefore take our ancient friend Don Juan’「英雄がいない、まったく見つからない（中略）だから私は昔からの友人ドン・ジュアンを駆り出した」で始まる『ドン・ジュアン』は、1818 年から 1824 年にわたって書き続けられた未完成の長編冒険物語詩である（16 篇、15,000 行）。バイロンは伝説上の人物の名を借りて、詩人自身の自己を反映させた恋愛と冒険に生きる英雄を作り上げた。本作は風刺の要素が強く、様々な人物に対する詩人の意見が表明されている。詩文はイタリアの風刺英雄詩形であるオッタヴァリーマ（1 スタンザ/連 8 行、各行末で ab ab ab cc と脚韻を踏む）で書かれている。

本学が所蔵する 1819 年版の「新版」(a New Edition)は、第 1 篇と第 2 篇を収める。標題ページに詩人の名と出版者名は印刷されていない。存命の政治家や文化人への批判を含む内容であることを考慮したものと考えられる。

29. ウォルター・スコット『湖上の麗人：一編の詩』（ロンドン：ジョン・シャープ）1811 年　挿絵：リチャード・ウェストール

Walter Scott, *The Lady of the Lake: A Poem*. Illustrated with engravings from the design of Richard Westall. London: John Sharp, 1811.

ウォルター・スコットは『ウェイバリー』(1814 年)や『アイヴァンホー』（1819 年）など、過去の歴史的人物や事件を取り上げた歴史小説で大成功を収めた。だが、小説家に転身する前には、スコットランドの民謡を収集し、物語詩を発表する詩人であった。

『湖上の麗人』は 16 世紀スコットランドを舞台とし、カトリン湖（高地地方と低地地方の境界に位置する）の小島に住むエレンと、スコットランド王フィッツ・ジェームズとをめぐって展開する恋と武勇の物語詩である。1810 年にエジンバラとロンドンで出版され、初版 25,000 部が完売した。詩の初版としては、過去の記録を塗り替えるものであった。

初版の翌年に出版された本学所蔵の一冊は、本の裁断面が金付されており、さらに小口を傾斜させるとスコットランドの山々と湖を背景に戦に向かう船団が浮き出るように加工されている。また、出版年が扉ページには 1811 年、標題ページには 1810 年と記載されているため、初版の余部を購入した出版者のジョン・シャープが新たな扉をつけて出版したものと思われる。

ヴィクトリア朝の詩

30. ロバート・ブラウニング『詩集』（ロンドン：エラニー・プレス）1904 年
版画：ルシアン・ピサロ

Robert Browning. *Some Poems*. First Edition. London: Erany Press, 1904. Engraving: Lucien Pissarro.

ロバート・ブラウニング(1812-1889)はロンドンの裕福な家に生まれ、少年時代から文学・美術・音楽に対する深い教養を身につけた。1833 年に『ポーリーン』(*Pauline*)を発表したが、これは 1,000 行を超える長編詩であった。初期の難解な詩を経て、ブラウニングは劇的独白という詩の新しい手法をあみだしたことで知られている。劇的独白とは、詩人と詩の語り手とを分離する手法で、ロマン派の詩人が詩人＝私という立場で詩を書いていたのとは大きく異なる。

展示の作品は、私家版印行所エラニー・プレスが出版したブラウニングの選詩集で、215 部印刷されたもののうちの 1 冊である。フランス出身の画家ルシアン・ピサロと妻エスターが運営したエラニー・プレスは、手漉きの紙を使用し、版画、装丁など、一貫して丁寧な仕事に定評があった。

展示のページはブラウニングの代表作「廃墟の中の愛」(‘Love among the Ruins’, 1855 年)で、詩集『男と女』(*Men and Women*, 1855 年)に収められた。長さの違う 2 行が脚韻を踏む対句構成をとっている。

31. ロバート・ブラウニング『ピパが通る』（ロンドン：ダックワース）1898 年
挿絵：レスリー・ブルックス

Robert Browning. *Pippa Passes*. [with Drawings by L. Leslie Brooke] London: Duckworth, 1898.

ブラウニングの詩劇『ピパが通る』は 1841 年に出版された。ピパという少女が歌いながら街をさまよい歩くと、彼女の歌はそれを聞いた人々に影響を与える。「頃は春/ 時は朝/ 朝は 7 時/ 丘にはしずくが光り/ 空にはひばり/ とげにはカタツムリ/ 神は世にいます/ 世にはなべてこともなし」の部分は、ブラウニングがその楽観主義を表明したものとして言及されることが多い。

ここに展示した一冊はダックワース＆Co が製作した限定 60 部（領布は 50 部）のうちの 45 冊目にあたる。バックラム（糊やにかわ等で難くした亜麻布）に金箔で花のパターンが刻印されている。

32. アルフレッド・テニスン『イン・メモリアル』初版（ロンドン：E. モクソン）1850 年

Alfred Tennyson. *In Memorial*. London: E. Moxson, 1850.

アルフレッド・テニスン(1809-92)はリンカンシャーに生まれ、ケンブリッジ大学のトリニティ・コレッジに学んだ。『イーノック・アーデン』(1864 年)、『国王牧歌』(1859-85 年)などの代表作がある。ワーズワースの後を受け、桂冠詩人に叙せられた。

ここに展示した『イン・メモリアム』はケンブリッジ大学時代の親友で 22 歳の若さで急死したアーサー・ヘンリー・ハラムへの追悼である。左手のページに‘In Memoriam A. H. H. Obit MDCCCXXXIII’（A. H. H. 1833 年没の思い出に）と刻まれている。また、右手のページにある巻頭の詩は讃美歌としても歌われている。

33. アルフレッド・テニスン『ウェリントン公爵の死によせる歌』新版（ロンドン・エドワード・モクソン）1853 年

Alfred Tennyson. *Ode on the Death of Duke of Wellington*. New Edition. London: Edward Moxon, 1853.

34. アルフレッド・テニスン『ウェリントン公爵の死によせる歌』初版（ロンドン：エドワード・モクソン）1852 年

Alfred Tennyson. *Ode on the Death of Duke of Wellington*. First Edition. London: Edward Moxon, 1852.

ワーテルローの戦い(1815 年)でナポレオン 1 世を打ち破り、英国首相も勤めたウェリントン公爵の死去(1852 年 9 月 14 日)にあたり製作された。標題ページには、「桂冠詩人」(Poet Laureate)であることが明記された。

本作は桂冠詩人でありながら王室におもねることをよしとしないテニスンに、詩の執筆を勧めたのはリチャード・モンクトン・ミルンで、ウェリントン公爵の死後 2 日目のことだった。詩は 10 月末に脱稿し、テニスンは 200 ポンドの原稿料と、10,000 部 2 シリングで販売した売上に対する印税を受け取る契約を結ぶ。しかし、詩が発行できたのはウェリントン公爵の国葬の 2 日後であり、出版者は大急ぎで売り切ろうと奔走した（展示番号 34）。

翌年には改訂版が出版された（展示番号 33）。

35. アルフレッド・テニスン『アルフレッド・ロード・テニスン詩集』（ロンドン・マクミラン）1899 年　表紙絵ドロシー・カールトン・スミス

Alfred Tennyson. *The Poems of Alfred Lord Tennyson*. First Edition. London: Macmillan and Co., 1899. Hand-Painted by Dorothy Carleton Smyth.

イギリス南部バースの製本師セドリック・チヴァーズが装丁したマクミラン版のテニスン全集。チヴァーズが「ヴェルーセント」(vellucent)（vellum ヴェラム：動物の皮を加工して作った台紙＋lucent 光る・透明の）と呼んだ技術が使われている。これは、まず台紙に彩り豊な絵を描き、その上にヴェラムを貼り込んで、二つが分離しないように加

工する技法で、18 世紀の製本業者ハリファックスのエドワーズが 1753 年に特許登録した透明ヴェラム製本技術を応用したものと考えられている。

表紙・背表紙・裏表紙とも、アーサー王伝説に取材したテニスンの代表作『国王牧歌』からアーサー王と王妃グィネヴィアを配した、アールヌーボー調のデザインが使用されている。

ラファエル前派とケルムズコット・プレス

36. クリスティーナ・ロセッティ『王子の成長、その他の詩』（ロンドン・マクミラン）1866 年 挿絵：ダンテ・ガブリエル・ロセッティ

Christina Rossetti. *The Prince's Progress and Other Poems*. [two illustrations by D. G. Rosetti] London: Macmillan & Co., 1866.

クリスティーナ・ロセッティ(1830-94)は熱心な英国国教会の信徒で、宗教的で子ども向けの詩を多く書いた。クリスティーナの詩は、直裁で読む者を惹きつけずにおかない。

早くから詩の才能を現し、1847 年には雑誌『アセネウム』に、1850 年からエレン・アレンのペンネームでラファエル前派の機関紙『ザ・ジャーム』に投稿し始めた。最初の詩集は『ゴブリン・マーケット』(1862 年)、次いで発表されたのが『王子の成長、その他の詩集』(1866 年)である。両詩集とも、兄ダンテ・ガブリエル・ロセッティの挿絵が、扉と標題ページに使われている。兄ダンテ・ロセッティの版画は中世趣味への傾倒を如実に示している。また、細部に至るまで細かく彫り込まれている。

37. ダンテ・ガブリエル・ロセッティ『ソネットと抒情詩』（ロンドン：ケルムズコット・プレス）1894 年

Dante Gabriel Rossetti. *Sonnets and Lyrical Poems*. London: Kelmscott Press, 1894.

ダンテ・ガブリエル・ロセッティ(1828-1882)はイタリア人の父とイギリス人の母のもとに生まれた。家庭で教育を受け、画家を志した。1848 年にはラファエル前派同志団を結成した。一方、15 歳にしてトマス・パーシーの『イギリス古謡選』(1765 年)を読み、17 歳の頃にはイタリア語とドイツ語の中世詩の英語翻訳を開始した。翌年には詩作を始め、ラファエル前派の機関紙『ザ・ジャーム』に投稿した。最初の詩集は 1870 年出版の『詩集』（*Poems*）で、この詩集のためにロセッティは亡き妻と共に納棺した詩を取り出した。売れ行きは好調で、初版 1,000 部が 1 週間で売り切れたという。

『ソネットと抒情詩』はロセッティの死後に出版されたもので、1891 年にウィリアム・モリスが設立したケルムズコット・プレスで印刷された。理想の書物を中世の書物に求めたモリスは、飾り文字や縁飾りをデザインした他、活字も太くて力強く見えるフォントを考案して使用した。展示したページの右側から、「生命の家」(‘The House of Life’) ソネット（14 行詩）連作が印刷されている。これは当初 1870 年の処女詩集に収録された。このソネット連作はイングリッシュ形式（abab cdcd efef gg と脚韻を踏む）ではな

く、中世イタリアの詩人ペトラルカに由来する形式で書かれている。また、改行するのではなく、改行すべき箇所に木の葉の活字、上 8 行と下 6 行の間に赤い花模様の活字が 3 個印刷されている。

38. ダンテ・ガブリエル・ロセッティ『バラッドと物語詩』（ロンドン：ケルムズコット・プレス）1895 年

Dante Gabriel Rossetti. *Ballads and Narrative Poems*. London: Kelmscott Press, 1895.

『バラッドと物語詩』もロセッティの死後、ケルムズコット・プレスで印刷された。ここに開いたページは「ヘレン姉さん」(‘Sister Helen’)というバラッドで、もともとは 1870 年の『詩集』に収められた。中世のアイルランドで、恋人に裏切られた女性が、他の女性と結婚しようとする男に呪いをかける、という内容である。バラッドは、弟と姉の掛け合い（引用符“ ”を用いて書かれている部分）、リフレインするコーラスの部分は赤字で印刷されている。ロセッティ兄独特の怪奇趣味がうかがえるバラッドである。

39. ウィリアム・モリス『グィネヴィア：二編の詩』（ロンドン：ファンフロリコ・プレス）1930 年　版画：ダンテ・ガブリエル・ロセッティ

William Morris. *Guenevere: Two Poems*. London: Fanfrolico Press, 1930.

ウィリアム・モリス(1834-96)は、詩作の他に工芸でも活躍し、社会主義運動にも参加した。また、アーツアンドクラフト運動（中世を礼賛し、手仕事による装飾美術を日常生活の中に生かすことを提唱）の中心的人物で、展示番号 37 と 38 を製作したケルムズコット・プレスを運営した。

『グィネヴィアの弁明その他の詩』はもともとモリスが 1858 年に発表した 5 編の詩からなる詩集で、アーサー王の妃グィネヴィアを主人公とする物語詩である。執筆当時、モリスはオックスフォード大学の学生であった。性的な道徳規範の厳しかったヴィクトリア朝にあって、アーサー王伝説は性的な欲望を取り上やすい題材であったのだろう。押韻形式はテルツァ・リーマで、1 連/スタンザ 3 行の詩行が aba/bcb/cdc/ded …と韻を踏み、ダンテの『神曲』(1308-20 年)はこの押韻形式で書かれている。

展示の一冊『グィネヴィア：2 編の詩』は、ファンフロリコ・プレスから出版されたもので、5 編のうちの 2 編「グィネヴィアの弁明」と「アーサー王の墓」に、ゴードン・ボトムリーの序文とダンテ・ガブリエル・ロセッティの版画 8 点を付している。ファンフロリコ・プレスは私家本の出版社で、1923 年にオーストラリアのシドニーで設立された後、ロンドンに移った。